

⑤0 夢洲コンテナターミナル整備事業

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所
阪神国際港湾株式会社

キーワード 荷さばき地拡張、万博、交通対策

全建賞審査委員会の評価ポイント

荷さばき地やゲート等を整備し、新・港湾情報システムの運用を開始することでコンテナ貨物の取扱能力向上に向けてハード・ソフト両面からの有効な対策を適切に検討するとともに、夢洲コンテナターミナルでは、大阪・関西万博による交通量の増加に対応し、円滑な交通を確保。その社会的影響の大きさを示した点が評価された。

1. はじめに

大阪港夢洲コンテナターミナルは、国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の中核施設として、増大するコンテナの取扱量とコンテナ船の大型化に対応するための事業を実施している。

本事業では、耐震強化岸壁と一体的に機能する荷さばき地の拡張整備等を行い、入場待ち車両の滞留状況を改善し、交通の円滑化を図った。

2. 事業の必要性・概要

夢洲コンテナターミナルは、阪神港の中核施設として、今後増加が見込まれるコンテナ需要に対応するため、荷さばき地の拡張が必要であった。また、ゲートの処理能力がボトルネックとなっており、周辺道路に入場待ちの滞留車両が発生し、開催が決定している大阪・関西万博の旅客輸送にも影響が生じるおそれがあった。そのため、荷さばき地の拡張に併せて、ゲート処理能力の向上も求められた。



夢洲コンテナターミナル

さらに、ゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮によるコンテナ物流の効率化及び生産性向上を目的として、国土交通省が開発したシステムである新・港湾情報システム（CONPAS：Container Fast Pass）も導入した。大阪港で実施した試験運用においては、トレーラー（輸入コンテナ）1台

当たりのゲート処理時間を約60秒短縮することができ、また、CONPASの運用により、ゲート処理能力を向上させ、ゲート前の混雑を解消することができる。

3. 事業の成果

本事業により、入場車両に対するゲート処理能力が向上し、道路上に滞留していた車両をターミナル内に収容可能となった。以下の写真のとおり、整備後は入場待ちトレーラーの滞留状況が改善した。



待機車両が2列から1列に減少



待機車両の滞留が解消

※ピーク時（13時頃）に撮影

4. おわりに

令和7年2月に荷さばき地拡張部の一部及びゲートの本格運用を開始した。また、令和7年4月に大阪・関西万博が開幕し、開幕以降、入場者数は増加傾向であり、開幕から6週間で累計500万人を超え、盛況となっている。本事業により、万博における旅客輸送の円滑化が図られるとともに、夢洲コンテナターミナルにおけるコンテナ貨物の取扱能力が向上した。今後、更に増加が見込まれるコンテナ取扱量に対応し、大阪、ひいては近畿圏全体の経済活動の活性化に貢献することが期待される。

賛助会員 五洋建設(株)、あおみ建設(株)、八千代エンジニアリング(株)、東洋建設(株)、中央復建コンサルタント(株)、(一財)みなと総合研究財団